

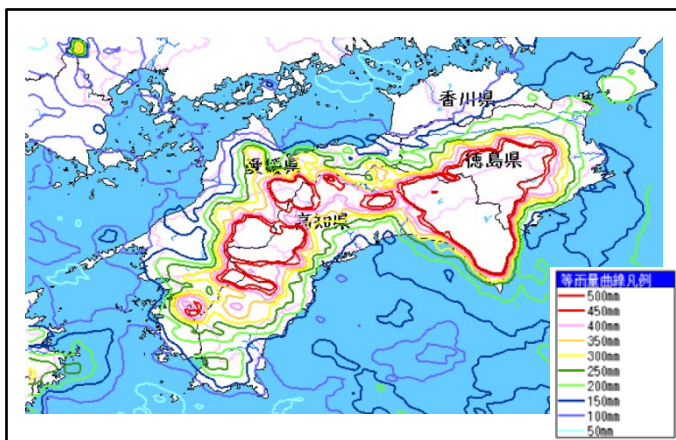
気象の概要 (令和元年8月 台風第10号)

■ 台風第10号の気象概要

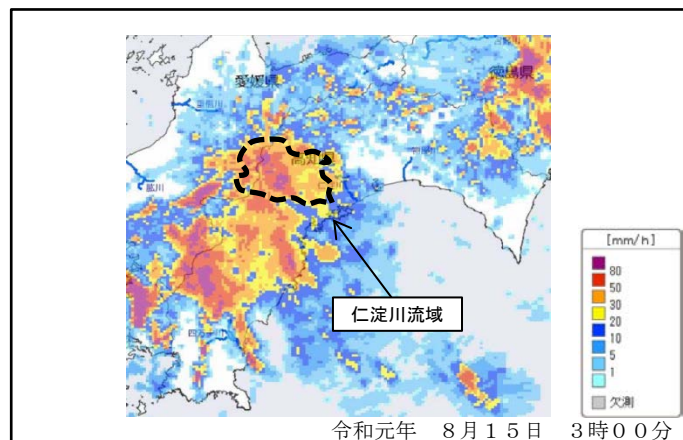
- ▶ 令和元年8月6日17時にマリアナ諸島付近で発生した台風第10号は、勢力を強めながらゆっくりと北上を続け、九州と四国間の豊後水道を通過した後に、8月15日21時30分頃に広島県呉市付近に上陸しました。
- ▶ 仁淀川流域では、この台風により8月14日から8月16日までの総降水量が多いところで500ミリを超えるなど、記録的な大雨となり、大渡ダム上流の流域平均総降水量は、384mm(速報値)を記録しました。

■ 台風第10号等雨量線図(国交省・気象庁観測地点)

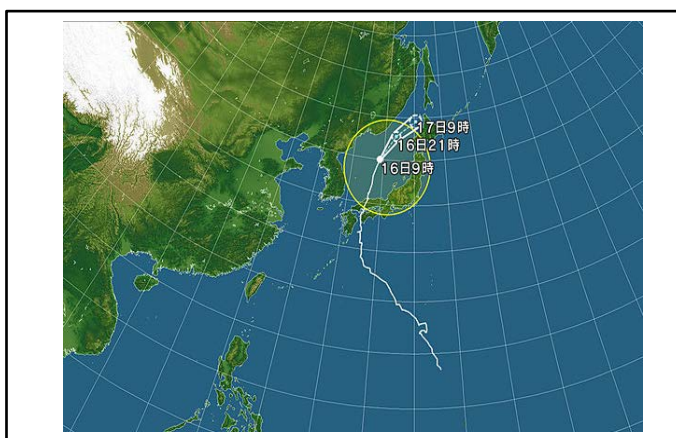
[総雨量: 令和元年8月14日～令和元年8月16日]



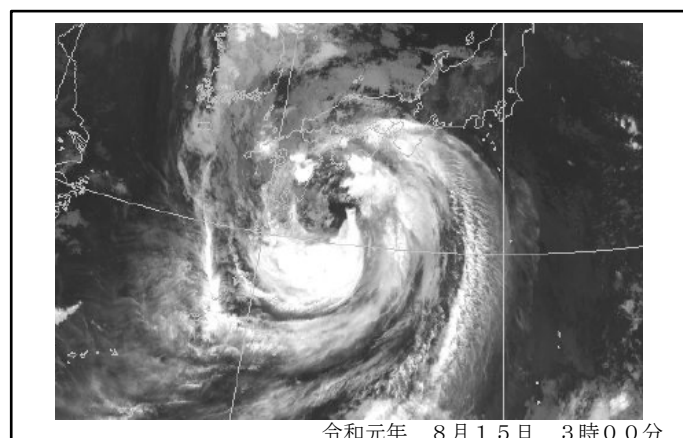
■ レーダー雨量画像(出典: 川の防災情報ホームページ)



■ 台風第10号経路図(出典: 気象協会ホームページ)



■ 気象衛星画像(出典: 気象庁ホームページ)



■ 代表的な雨量観測所における累加雨量

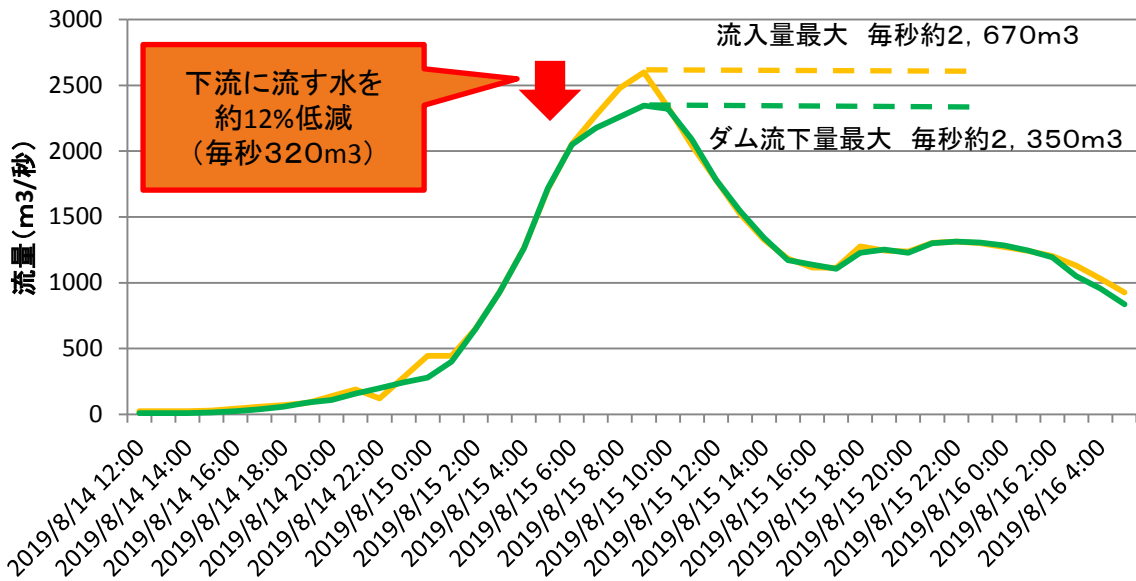
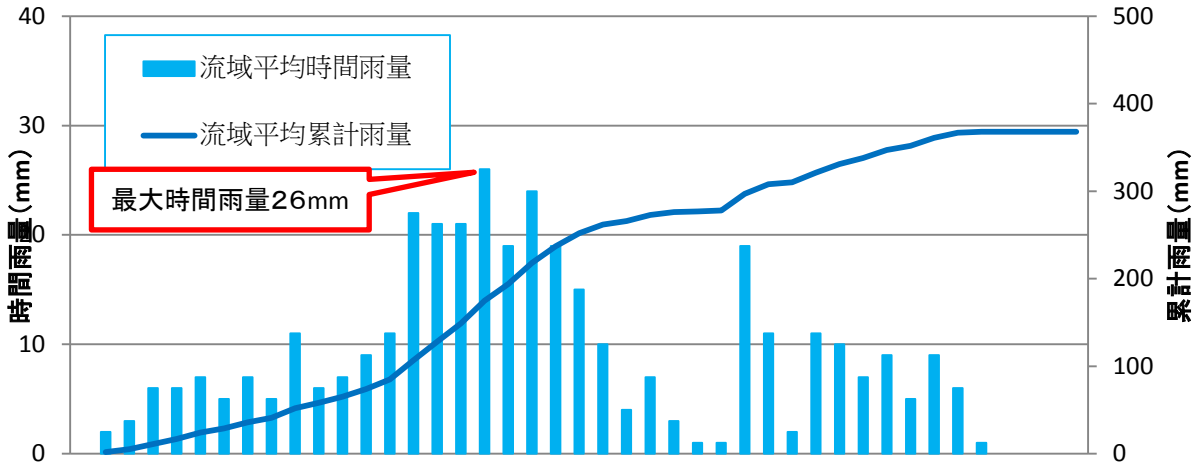
仁淀川流域: 池川 (国交省) 318mm

仁淀川の対応状況(令和元年8月 台風第10号)

・大渡ダムへの洪水貯留の状況

■ 台風第10号における大渡ダム洪水貯留状況

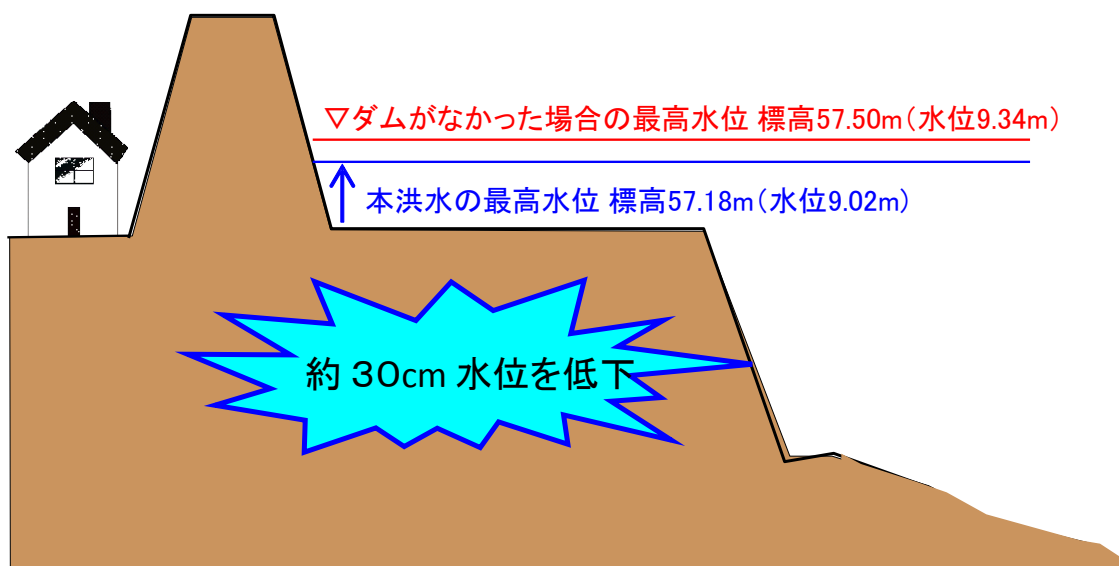
大渡ダムでは、最大流入量毎秒約2,670m³のうち、約1割に相当する毎秒約320m³をダムに貯留し、ダムからの流下量を約2,350m³に低減させました。



大渡ダムの洪水貯留による効果

■ 大渡ダムに洪水を貯留したことより 越知地点の水位を低減

- 大渡ダムの洪水貯留により、ダムが無かった場合の越知地点の河川の水位を約30cm低下させました。



■ 大渡ダムの流木の捕捉状況

- 大渡ダムにおいて、平年の発生量の約2倍にあたる約1,000m³の流木を捕捉することにより、流木による下流の被害を軽減させました。

